

# クリオ

May 2017 vol. 31

## 巻頭言

『クリオ』バックナンバー電子化にあたって 1

## 電子化特集

歴史研究者のためのデジタル道具箱

小風 尚樹 2

## 座談会記録

歴史研究者と対象社会——近現代フランスを中心に——

10

## 論文

10世紀ビザンツ史料におけるブルガリア王シメオン1世の位置づけ  
——対ブルガリア和平記念演説とロマノス1世のプロパガンダ——

沼 大地 33

## 特別寄稿

ヘレニズム期カリアにおける *eis ta patrika*  
——概念、手続きそれとも慣習？——

リエット・ヴァン・ブレーメン 訳：師尾 晶子 47

ミレトスのタレスとギリシア都市構想（アーバニズム）の誕生  
——賢人は如何にして都市を創建したのだろうか——

アレクサンダー・ヘルダ 訳：佐藤 昇 63

啓蒙の世紀のフリーメイソン会所におけるムスリムの認識と受容

ピエール＝イヴ・ボルペール 監訳：田瀬 望 107

## 史料解題・翻訳

第二リヨン公会議（1274年）決議文翻訳

監修：藤崎 衛 123

## 書評

長谷川貴彦『現代歴史学への展望——言語論的転回を超えて』

長野 壮一 148